



～ワークショップを開催します～

「コロナ禍のなかから生存の歴史を問う」

- ◇日 時：6月18日（土）14：00～16：00
- ◇会 場：竜丘公民館 大ホール / オンライン併用
- ◇問題提起：田中雅孝（歴史研究所特任研究員）
- ◇聞き手・語り手の意見・感想
- ◇コメント：安岡健一さん（大阪大学大学院人文学研究科）
山川みやえさん（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻）



「生存の歴史」とは、人びとが、人間らしく、共に生きるために、いかにして命を産み、育み、守ってきたのか、どのような地域社会を形成してきたのかを探ることです。聞き書き集『生存の地域史をかたる』（飯田市歴史研究所、2022年）を素材に、コロナ禍のなか、生存の歴史の意味を探ります。

書評会：本島和人著『満洲移民・青少年義勇軍の研究』

- ◇日 時：7月2日（土）14：00～16：00
- ◇会 場：上郷公民館 2階講堂 / オンライン併用
- ◇書 評：原英章（歴史研究所調査研究員）、上河内陽子（歴史研究所満洲移民ゼミ生／市民研究員）
多田井一子（歴史研究所満洲移民ゼミ生）、太田仙一（歴史研究所研究員）
- ◇コメント：満洲移民研究ゼミ参加者、細谷亨さん（立命館大学経済学部准教授）
田中雅孝（歴史研究所特任研究員）、齊藤俊江（歴史研究所調査研究員）
- ◇応答：本島和人（歴史研究所調査研究員）

本島和人氏が『満洲移民・青少年義勇軍の研究』（吉川弘文館、2021年）を刊行しました。役場文書をはじめとした幅広い史料に基づき執筆された本書は、満洲移民、ひいては飯田・下伊那の近代史研究において重要な研究です。本書の書評を通じて飯田下伊那の満洲移民についての理解を深めます。

参加方法：①会場での受講（定員40名）、②ご自宅等でのオンライン受講

資料代：200円 ※オンラインは無料

申込方法：それぞれ2日前までに電話・FAX・メールのいずれかでお申込み下さい。
その際、受講場所とご連絡先をお知らせください。

※新型コロナウイルスの感染状況により、報告者などがオンライン参加になる場合がございます。

飯田市歴史研究所2022年度研究計画

1. 共同研究：複数の諸研究員によって研究組織を構成し、遂行するもの

- ・基盤調査：飯田市歴史研究所の日常的・永続的な調査・研究事業
- ・課題研究：数年間をかけて特定のテーマに取り組む研究
- ・単位地域研究：市域の自治区域（旧町村）を対象に取り組む総合的な調査・研究

基盤調査	A 史料所在状況調査	羽田真也	単位地域研究	A 飯田・上飯田	多和田雅保
	B 史料現状記録調査	羽田真也		B 座光寺	羽田真也・田中雅孝
	C オーラルヒストリー調査	田中雅孝・竹村雄次		C 川路	福村任生・田中雅孝
	D 歴史的建造物調査	福村任生		D 山本	竹村雄次
	E 歴史的公文書調査	太田仙一・竹村雄次・羽田真也		E 鼎	太田仙一
	F 在外史料調査	吉田伸之			

課題研究	A 小学校区を単位とする地域社会の文化構築に関する歴史的研究	多和田真理子
	B 山里の分節的把握—阿智村清内路を素材として	吉田伸之
	C 南信濃山里社会の文化的景観とその歴史的形成過程に関する基盤的研究	吉田ゆり子

2. 基礎研究：それぞれの研究員が個人で遂行するもの

所長	吉田伸之	「小規模伝統都市・飯田の社会=空間構造」4	調査研究員	齊藤俊江	下伊那地域の満洲移民研究
	大串潤児	「村と戦争」の総合的研究		竹ノ内雅人	飯田下伊那地域の寺社と地域社会に関する基礎的研究
顧問研究員	加藤陽子	森本州平日記を読む		多和田真理子	小学校の設置運営と地域の関わり— —日誌類の分析を中心に—
	田嶋一	飯田・下伊那の教育・人間形成についての教育社会史的研究		千葉拓真	近世の飯田・下伊那における領主間ネットワークと地域社会の総合的研究
	多和田雅保	近世・近代の飯田町を中心とするネットワークの研究		原英章	満蒙開拓青少年義勇軍の送出についての史的研究— —学校教育や役場等現場の関わりを中心に—
	安岡健一	飯田下伊那の農協生活活動			戦争末期における飯田下伊那の動き— —川路への豊川海軍工廠の疎開、農兵隊等—
	吉田ゆり子	下伊那地域における身分的周縁に関する研究			飯田市平和祈念館資料室 所蔵資料の歴史的調査
研究員	羽田真也	近世信州伊那地域における村社会の構造— —座光寺村を素材として—		樋口貴彦	山村の木材利用の手法に関する研究
	太田仙一	近現代長野県下伊那地域を対象とする経済・経営史的分析		前澤健	樽木役に関わる諸問題の検討
	福村任生	明治大正期の地籍史料群を用いた歴史的景観の研究		本島和人	満洲開拓第二期五ヶ年計画と「中心人物」
特任研究員	田中雅孝	養蚕地帯の地域社会構造と主体形成			青少年義勇軍送出と郡市教育会の戦時期と戦後
	竹村雄次	明治大正期、下伊那の文化結社の活動と他分野への展開			満洲移民参加者の個人日記の翻刻と解説

市民研究員	栗谷真寿美	農業青年、楯操の歩み—自由大学から、江渡狄嶺、ヤマギシズムへ—
	上河内陽子	出征兵士と教師の軍事郵便—昭和13年の日中戦争期に語られたこと—
	坂本広徳	近世清内路の社会構造
	清水迪夫	戦前下伊那における社会運動について
	林武史	飯田の街角の文字デザインと歴史を見つめる
	壬生雅穂	ミチューリン運動の諸問題の研究—菊池謙一を中心に—

「満洲移民」をテーマに第19回飯田市地域史研究集会を開催します

1日目は、飯田・下伊那における満洲移民研究の最新の成果を、新たな視点を加えながら議論し、2日目は、満洲移民に関わる様々な今の取り組みを紹介します。これらを通して、満洲移民研究の到達点を明らかにし、同時に今後の課題や方向性を探ることを目指します。このほか、自由論題報告も行います。

- ▶日時：9月10日（土）、11日（日）
- ▶講演：加藤 陽子さん（東京大学 / 歴史研究所顧問研究員）
本島 和人（歴史研究所調査研究員）
- ▶報告：手塚 孝典さん（信越放送）
橋本 珠子さん（満洲移民体験者）
三沢 亜紀さん（満蒙開拓平和記念館）
齊藤 俊江（歴史研究所調査研究員）
- ▶自由論題報告：塩澤 元広さん（高森町歴史民俗資料館）
竹村 雄次（歴史研究所特任研究員）

40年目の「ムトス」

安岡 健一（大阪大学准教授/歴史研究所顧問研究員）

4月から顧問研究員になりました。私は、2013年4月から2年半、歴史研究所に研究員として勤めました。飯田の市民として暮らしたこの時期は自分にとってかけがえのない時間です。今回は着任にあたって、在任中に会った印象深い資料を紹介します。

ある日、市役所本庁から、貴重そうな資料があるが歴史研究所で必要かどうか問い合わせがありました。それが飯田市企画調整課作成の『10万都市構想』というファイルです。1982年、飯田市は「10万都市構想」を策定しました。ここには地域づくりの指導者である玉井袈裟男さん（信州大学名誉教授）が市役所職員に宛てた書簡や担当課のレジメなど、「ムトス」を掲げる本構想ができるまでの記録やその反響が収められています。ここから、当時の方がどのように町の未来を構想したかを知ることができます。

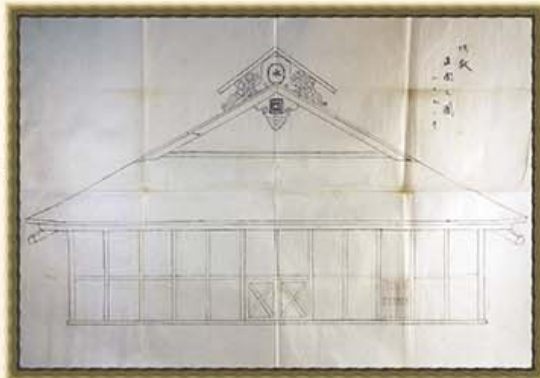
資料中に「まちづくりは個人の自立から」という言葉があります。「自立」とは、単に自分一人でも何でもやることではなく、他者を尊重し、人間として尊厳を持って生きられるところに、はじめて成立するのではないのでしょうか。私は、人の歩みに真摯に学ぶ「聞き取り」は自立の基盤になると考えます。今後、より多くの市民（たとえば学校で学ぶ子どもたち）が聞き取りに取り組む支援をしたいと思っています。人と人との絆を、時間と場所をこえてはぐくむためにも、地域の歴史に学ぶ者として貢献したいので、これを私の「ムトス」とします。



史料紹介

飯田「歌舞伎座」新史料発見！

明治30年代。羽場坂を登ったところに、その名も「歌舞伎座」という大劇場がありました。その関係史料が20数点一括で発見されました。同劇場については、池田愛泥、水野都津夫、村沢武夫らが昭和期に行った聞き取り調査がありますが、わからないことも多い幻の劇場です。東京の「歌舞伎座」より大きかったとの話が伝わっていますが、今回の史料には劇場正面の立面図（写真上）・舞台客席の平面図（写真下）や地権の分筆図などがあり、確かに大きなものと推定できます。平面図には、舞台中央に大きな円がかかれ、巨大な回り舞台の存在も確認できます。



ところで、この歌舞伎座については、明治32年のこけら落とし興行に当時の超一流役者尾上菊五郎を東京から呼び連日満員の大盛況。しかし、問題ある人たちの関わりもあったようで関係者はみな破産したと伝わっています。発見の史料には、34年の権利者名が書かれた史料があり、池田らの報告には無い名も見られ、今後調査を進めたいところです。その他、劇場を相撲興行に貸した賃借証、舞台修復の記録などもあり、劇場経営について知ることができそうです。さらには、43年の廃場届があり、伝わっている大正期に興行があったという話との整合性なども調べていきたいところです。明治期の飯田の華やかな劇場の様子を伝えるとともに、大劇場にかけた興行師たちの心意気と挫折を伝える史料です。

竹村雄次（歴史研究所特任研究員）

「飯田御用覚書」を一緒に読みませんか

前号でもご紹介しましたように、歴史研究所では、このたび史料集『延宝二年 飯田御用覚書』を刊行しました。「飯田御用覚書」は、飯田藩堀家の国元の重臣(用人)が、公務に関わる日々のできごとを記録したものです。毎年書き継がれたと考えられますが、今回は現存する中でもっとも古い延宝2(1674)年の御用覚書の全文を活字化しました。



近世史ゼミでは、この延宝2年の御用覚書を読み進めています。原文と史料集をテキストに、ゆっくりとしたペースで、みんなで意見を交わしながら理解を深めています。堀家用人の目を通して、堀家や家臣団のありよう、江戸や京都との関係、近隣の旗本や幕府代官とのつながり、飯田城下や村々でおこった様々な事件など、350年前の飯田・下伊那の様子が明らかになってきています。

古文書を読めなくても、くずし字に慣れていなくても大丈夫です。私たちと一緒に御用覚書を読んでみませんか。少しでも興味をもたれた方は、ぜひ歴史研究所へご連絡ください。

担当者:羽田真也(歴史研究所研究員)

開講日時:毎月第2・4水曜日18:30~20:30

場所:歴史研究所研修室

定例研究会

「関口存男の疎開 —岸田國士との関わり—」

ドイツ語学者・演劇人として知られる関口存男は戦中戦後、妻籠に疎開していた。彼の疎開と、陸軍士官学校の先輩であり、法政大学では同僚でもあった岸田國士との関わりを併せて考えてみたい。

報告者:柴田 明子さん(法政大学大学院)

開催日時:6月25日(土) 14:00~16:00

会場:鼎公民館3階講義室

飯田アカデミア2022 第96講座

アイルランドの農村一揆

かつた しゅんすけ

講師 勝田 俊輔さん

(東京大学大学院人文社会系研究科教授)

日時 7月23日(土) 13:30~16:50

24日(日) 10:00~14:30

会場 飯田市美術博物館2階講堂(定員30名)

※オンラインでもご参加いただけます

申込み

7月15日(金)までにお電話(0265-53-4670)でお申込みください。その際に受講方法等についてご案内させていただきます。

※新型コロナウイルスの影響で延期となっていた講座です。詳細は歴研ニュース115号をご覧ください。

受講生募集!

歴研ゼミ&ワークショップ 6月・7月の予定

建築史ゼミ

担当:福村任生(研究員)

6月17日/7月15日

(第3金曜日) 19:00~21:00

近世史ゼミ

担当:羽田真也(研究員)

6月8日・22日/7月13日・27日

(第2・第4水曜日) 18:30~20:30

近現代史ゼミ

担当:田中雅孝(特任研究員)

6月25日/7月16日

(第4土曜日) 10:00~11:40

※今年度から月1回となります

思想史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場

6月1日・15日/7月6日・20日

(第1・第3水曜日) 19:00~21:00

満洲移民研究ゼミ

担当:本島和人(調査研究員)

齊藤俊江(調査研究員)

第125回 6月4日/第126回 7月2日

※7月2日は書評会参加(1面参照)

(第1土曜日) 10:00~11:40

地域史ゼミ

担当:太田仙一(研究員)

6月10日/7月8日

(第2金曜日) 18:30~20:30

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL:0265・53・4670

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、発熱・咳などの症状のある方やマスクを着用されない方の受講はご遠慮ください。また、今後の感染状況により、延期または中止、参加者の制限をする場合がありますのであらかじめご了承ください。開催日の1週間前に開催可否を判断します。

開所時間:午前9時~午後5時 休所日:日曜日・月曜日・祝日・12月29日~1月3日

メール配信への切り替えをご希望の方は、E-mail: iihr@city.iida.nagano.jp まで